

長崎市

# 高島石炭資料館

NAGASAKI CITY TAKASHIMA COAL MUSEUM



# 高島炭鉱関連史跡MAP



ほっけいせいこうあと  
① 北溪井坑跡

イギリス人技師モリスを招き、明治2年(1869)日本最初の蒸気機関による洋式採炭法を取り入れた近代炭鉱。現在は竪坑のみが長崎市指定史跡となっている。



② グラバー別邸跡

幕末期に来崎した商人グラバーが慶応4年(1868)高島炭坑を開発した際に建設した別邸跡。昭和23年老朽化のため取り壊された。



なんようせいこうあと  
③ 南洋井坑跡

明治4年(1871)採炭が開始され、明治25年(1892)の閉坑まで主力坑として出炭が行われた。竪坑を見ることはできないが、排気坑跡が現存している。



ひやくまざき  
④ 「百間崎」地名由来の防波堤

炭坑開発のため、築かれた防波堤。非常に距離が長く、百間(約180m)位あることから「百間崎」と名付けられた。



なかやましんこうこうぐちあと  
⑤ 仲山新坑坑口跡

昭和10年(1935)開坑された斜坑。機材などの運搬用の坑口で、人の搬入・搬出及び石炭の搬出が行われた。



# 高島石炭資料館

## 高島石炭資料館

高島石炭資料館は、明治・大正・昭和に渡って長年操業してきました高島炭鉱の歴史を後世に伝えることを目的として、昭和63年(1988)に三菱高島炭鉱労働組合跡に設置されました。

## 高島炭鉱の歴史

高島における石炭の発見・採炭の始まりは、伝承によると18世紀初め頃とされています。記録では、天明7年(1787)、深堀鍋島家が高島炭の長崎での販売を許可しており、この頃にはすでに高島での採炭が事業として成立していたことがわかります。

江戸時代の高島における採炭の方法は「たぬき掘り」と呼ばれる石炭の露頭部から炭層に沿って掘り進んでいく原始的な方法でしたが、慶応4年(1868)佐賀藩とグラバー商会との間で高島炭坑共同経営契約が成立し、明治2年(1869)蒸気機関を動力に使った日本最初の洋式堅坑「北溪井坑」が開坑し、採炭を行いました。

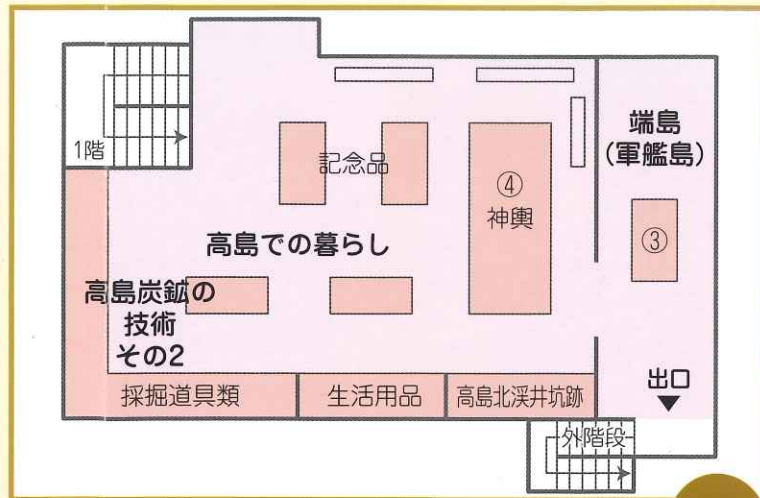
明治14年(1881)三菱の創始者 岩崎彌太郎が後藤象二郎から高島炭坑を買収し操業を行ったのが、三菱高島炭鉱のはじまりです。その後、三菱最大の企業として発展してきましたが、国の石炭政策の変更等により、昭和61年(1986)11月に閉山しました。



③ 端島(軍艦島)コーナー  
高島炭鉱の支山であった端島(軍艦島)の概要を説明しています。

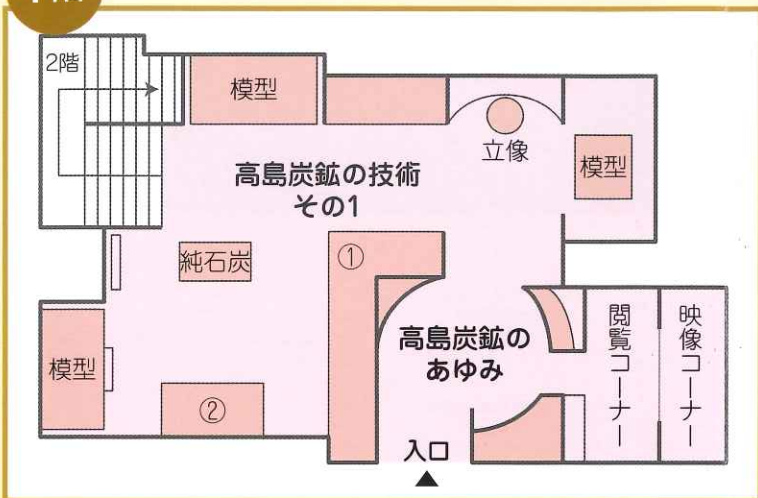
## ④ 高島神社神輿

高島唯一の神社である高島神社の神輿と獅子舞を展示しています。



2階

1階



① 高島炭鉱の技術 その1  
高島炭鉱の保安、救護、仕上、運搬、搬出、採炭、掘進について、実際に使用された道具や模型を展示しています。

## ② 坑内坑道立体模型

高島は海底炭鉱であり、広範囲で深部開発が行われました。これは、その坑内坑道を立体模型にしたものです。



## 主な展示品

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 年末年始(12月29日～1月3日)

### 1階

- 高島炭鉱の歴史資料
- 夕顔丸模型(日本最初の鉄船)
- 高島航空写真
- 高島炭鉱職員クラブ模型
- 石炭等
- 炭坑機材機具類
- 坑内坑道立体模型
- 三菱高島炭鉱模型
- 書籍、写真類

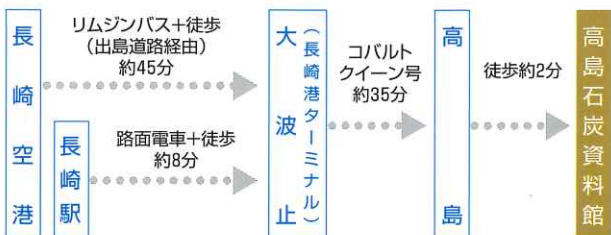
### 2階

- 高島の民具
- 化石資料
- 炭鉱組合等記念品
- 高島の地勢
- 端島の炭鉱

### 屋外

- 端島(軍艦島)模型
- 坑内斜炭坑用人車
- 坑内給水車
- 2トン炭車
- 坑内バッテリー機関車
- アーチ柵
- 鉄柱

# 高島町への 交通アクセス



**コバルトクイーン** (定期便) 【長崎～伊王島～高島航路】

連絡先

長崎汽船(株)

長崎 TEL(095)826-6238  
高島 TEL(095)896-2104

お問い合わせ

**長崎市高島行政センター**

長崎市高島町1728-1 TEL 095-896-3110